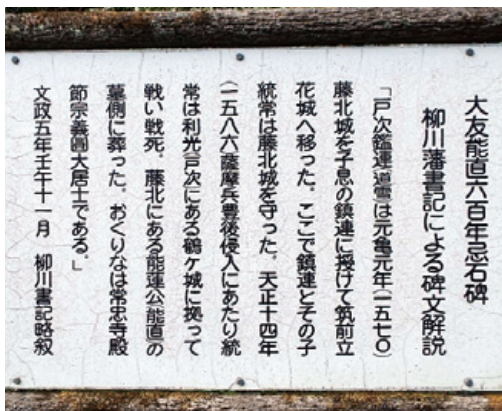




高崎山城の本丸跡に建つ大友一族の古城氏の記念碑



大分市猪野「キリシタン殉教記念公園」に建つ記念碑。昭和45年6月、大分県キリシタン史顕彰会会長 上田保。下のレリーフ建設費用一切は九重町の足立正平翁の篤志による。



豊後大野市藤北「常忠寺跡の大友能直公供養塔(下)」。文政5(1822)年11月、柳川藩による大友能直公六百年忌に際し、多額の整備費用を地元に寄進し整備した。



明治以降、いや江戸時代から多くの先人により
何度も顕彰・研究されてきたからこそ
私たちは知ることが出来るのです。

大分市上原館跡に建つ「西山城大友屋形跡」の巨大な石碑。昭和六(1931)年に当時の高山英明市長が「大分市制施行二十周年記念事業」として建立した。

令和8年度 大友氏顕彰フォーラム in 大分 「大友氏顕彰の足跡をたどる」

日時／令和8年 **11**月**14**日(土) 13:00～
会場／大分市コンパルホール400会議室
大分市府内町1丁目5-38

《プログラム》

12:50 オープニング(原川二郎歌唱)

13:00 あいさつ

13:30 基調講演「大友氏顕彰の足跡をたどる」

講師：坪根伸也氏(大分市教育委員会文化財課専門官・元文化財課課長)

14:30 休憩

14:40 第二部 座談会「大友氏各庶子家の顕彰活動を探る・宮城県の大友姓調査報告」登壇者：牧達夫・若杉孝宏・佐藤弘俊(資料提供：臼杵氏ほか)

15:40 終了

入場無料

主催／NPO法人大友氏顕彰会・NHK大河ドラマ「大友宗麟」誘致推進協議会

後援／大分県、大分県教育委員会、大分市、大分市教育委員会、大分合同新聞社、NHK大分放送局、J:COM ほか(予定)

問い合わせ：若杉孝宏(090-3607-8687)大分市ふじが丘3丁目5-4
牧 達夫(090-5386-7318)大分市古国府2丁目2-19

大友氏顕彰フォーラム in 大分 実施概要 (コンセプト)

第一部の基調講演は講師・坪根伸也氏（大分市教育委員会文化財課専門官）

講師を務めてくださる坪根伸也文化財専門官は、大学卒業後、ほぼ40年間にわたり大分市の歴史文化財の仕事に携わってこられ1990年代、大友氏遺跡発掘の当初からかわり、国の指定史跡認定にも奔走され、以降、30年以上にわたり研究されて現在に至っております。ほぼ同年代の鹿毛敏夫名古屋学院大学教授との共同研究でも大友氏関係の論文を多く著しています。

また、当大友氏顕彰会発足当初から文化財課の職員として専門家の立場で助言をくださり、我われ素人会員の大友氏歴史研究の指導もしていただいております。

大友氏顕彰会の活動歴も16年。活動のベースとなる大友氏の歴史の勉強は、歴史学者の書物がほとんどです。が、実は一般の篤志家や行政の顕彰活動は市民への啓蒙が主目的であります。が、学者の研究にも大いに寄与していることが分かってきました。

今回は坪根伸也専門官の発案で「大友氏の研究史、顕彰史」をテーマに講演していただきます。この講演で大友氏の研究・顕彰は、いつごろからどういう先人がいたのかが解明されます。あるできごとで断絶したように見える歴史は底辺で連綿として流れており、研究や顕彰は、波がありながらも時代がそういった人材を生み育み、努力を重ねてきたからこそ「歴史は生きている」と言えるのではないのでしょうか。

第二部は座談会

（大友氏顕彰会役員／牧達夫名誉理事長、若杉孝宏理事長、佐藤弘俊副理事長）

現代に生きている我々には誰しも先祖がいます。分かりきったことですが、じゃあ何代までさかのぼれる？となったとき、ほとんどの国民は古くて4代、高祖父母が生まれた天保年間（1830年代）くらいまでだろうと言われています。つまり明治新政府が戸籍を現在のような制度にしてからです。

ところで率は少ないですが、大友家臣団の子孫はもっと古くさかのぼれますし、意外と多くの家が自家の言い伝えを守り、周囲にも「先祖祭り・系図祭り」などを実施している方がいます。今回は大友一族に加え、大分に多い苗字の家を取り上げて情報発信したいと思います。また、昨年新しく当会に入会された宮城県の宮城直樹・崇会員のお二人は、大友義統の子孫と伝えられていることから9月末に訪問、その報告もいたします。

大友氏改易後四百年以上、たゆまざる研究・顕彰に加え、個人の先祖への想いが歴史を現代によみがえらせてくれます。後世に伝えていくためには、こうしたことが重要です。個々人の歴史の集合体が、つまり日本史につながっていることを理解してもらえればうれしく思います。